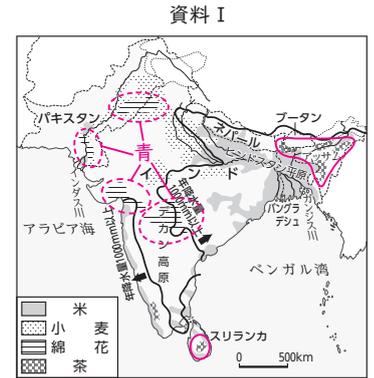


### 1. 気候の違いを生かした農業

(1) 資料Ⅰを見て、南アジアの農業と降水量の関係を説明してみよう。

(例) 降水量 1000mm 以上の地域では稲作が、降水量 1000mm 未満の地域では小麦や綿花の栽培が行われている。

(2) 茶の産地を赤で、綿花の産地を青で囲んでみよう。



### 2. 南アジアで成長する産業

(1) 資料Ⅱから、インドの ICT 関連産業について分かることをまとめてみよう。

(例) インドの ICT 関連産業の輸出額は 2005 年以降急激に増加しており、輸出先の半数以上がアメリカ合衆国である。

(2) 次の①～③にあてはまる語句や数字を記入し、インドの ICT 関連産業発展の背景をまとめてみよう。

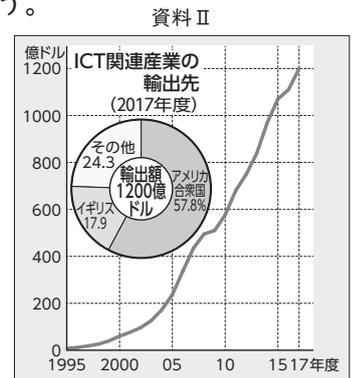
主な言語	ヒンディー語、(① <b>英語</b> )
インドとシリコンバレーとの時差	(② <b>13</b> ) 時間 30 分 ※ サマータイムは考慮しない
教育	特に (③ <b>数学</b> ) の教育水準が高い
国や州の取り組み	技術者育成のための機関など設立

(3) インドとアメリカ合衆国の時差が、なぜ ICT 関連産業の発展と関係しているのだろうか。

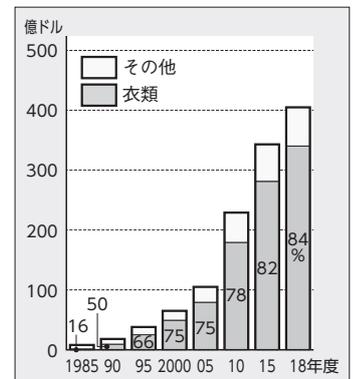
(例) 約半日の時差があることで、アメリカ合衆国の企業が仕事をしない夜の時間帯にインドでその仕事を引き継げるため。

(4) 資料Ⅲから、バングラデシュの輸出についてまとめよう。

(例) 輸出額が年々増加し、そのほとんどが衣類によって占められている。



資料Ⅲ バングラデシュの総輸出額に占める衣類の割合



### 3. 人口大国が抱える貧困層の問題

多くの国民が仕事を求めて都市部に人が集まった結果、どのような問題が起きたのだろうか。

(例) 農村部と都市部との経済格差が広がり、農村部では教育が不十分で字が読めない子どももみられる。また、都市部では大気汚染や交通渋滞などの問題も起きている。

#### 本時のまとめ

◆ 南アジアの国々で、ICT 関連産業や縫製業が発達した背景について、説明しよう。

(例) インドでは多くの国民が英語を話せ、アメリカ合衆国との時差が約半日というメリットを生かして ICT 関連産業が発達した。

また、バングラデシュでは周辺の国々よりも安い労働力を生かして、縫製工場が中国や先進国から移転してきている。